



# 聖母教育支援センター

## ボランティア室便り

2019年5月



### ご挨拶

2018年度も、聖母教育支援センターボランティア室所属の「かめの会」、「藤の会」、「桜樹会」、「ガーデニングボランティアサークル」の皆様、そして各所属の皆様には多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

教学部の松本三朗先生による「聖書の集い（年9回）」、クラフト専門講師指導による「手作り講座（年2回）」、「かめの会」による点字点訳、「藤の会」による手作り品バザーや紙芝居の製作及び披露、「桜樹会」による講演会、講座、紙芝居、保育、キルト製作、ボランティア体験会、そして「ガーデニングボランティアサークル」による緑化美化作業、スタッフやメンバーで取り組んだ被災地支援、地元商店街や学院内各バザー参加、本館見学案内、預かり保育など、皆様のご尽力のおかげで様々な活動を行うことができました。2019年度はこれらの活動に加え、「子育て支援講座」の開催を検討しております。

日々何かを感じ、何かを求めながら懸命に生きる“聖母の子どもたち”のため、保護者の皆様や地域の方々と協力し、わずかでも彼らの成長に役立てるよう、また、必要な時には彼らの支えとなるよう努めて参ります。

末筆ではございますが、聖母ゆかりの皆様への感謝を申し上げるとともに、本年度も皆様の変わらぬご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。（聖母教育支援センター 廣岡将人）



## *Men for others*

キリスト教の黄金律であるこの言葉は、国連本部にも掲げられるほど、国や民族、宗教を超えた人類の大切な価値観だと言われています。まさにボランティアは、他者のニーズのために自分を使う行為であります。しかし昨今の「ふるさと納税返礼品」をめぐる議論は、いかに見返りで得をするかが関心の的になっている感があり、いかなものなのかなと感じるのは私だけでは無いような気がします。欧米には稼いだ人は人々のために多く献金するのが当然という寄付文化があると聞きます。黄金律がその根本にあるから、と聞かされた時に、日本の現状は寂しい限りです。ある方から「アメリカではチャリティとなると、その物の値段以上支払って買うのが当たり前です。例えばイチローのバットが1本100万円と言われても、喜んで買ってチャリティに協力するような人が現れるのです。日本のバザーとはまるで発想が違いますね。」と言われて目から鱗が落ちる思いでした。しかし、黄金律を教育の土台に持つ本学には、ボランティア室所属の各団体の皆様の、地道で献身的な活動があります。まさに次世代を担う子どもたちへの生きた「教材」と感謝しております。

本年も聖母教育支援センターへのご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

（学校法人聖母女学院 理事長 赤野孝一）





## 第8回南三陸町支援体験ツアー

2018年7月24日～7月26日

2011年3月11日の東日本大震災発生直後から毎年開催している「南三陸町支援体験ツアー」も、今回で8回目となりました。費用は全て自己負担にもかかわらず積極的にご参加いただいた聖母ゆかりの皆様と、被災地である仙台、石巻、気仙沼、そして南三陸町を訪問しました。

近年は毎回各地同じ場所に訪れるのですが、だからこそ目の当たりにする厳しい現実があります。それは、復興状況の差です。大きな町は毎年見違えるほど美しくなっていくものの、小さな町では復興が遅れ、インフラにも未だ不自由があるのです。

「被災地に何度も足を運んでくれる人がいる。彼らの中には阪神淡路大震災で被災された人も多い。そんな彼らでも、被災範囲の広さと未だ残された廃墟の前では言葉を失う。」気仙沼で学習塾を運営されており、ツアーでも大変お世話になっているYさんの言葉です。東日本大震災は非常に被災範囲が広くその被害規模も甚大で、まだまだ支援は行き渡っていないのだと言います。Yさんは震災で自宅を失った後も、「子どもたちが全員卒業するまでは」と塾に寝泊まりし、この3月に全ての子どもたちを送り出すまで現地で生活をされていました。地域によっては復旧、復興状況の溝が埋まらない中、児童生徒たちのために想って懸命に生きた姿には感銘を受けました。このように諸事情を抱えて生きている、失礼ながら表には表れない「小さな人々」がまだまだたくさんいるのです。

Yさんは「被災地へ来る人々は皆、被災地を他人ごとではないと考え、何かしらの応援をしたいと来てくれている。」と、いつも感謝されています。震災後、複雑な思いで米どころへと送ったお米（仙台では今ではとても美味しいお米がとれるようになりました）、聖母幼稚園の園児たちによる励ましの手紙や心を込めた手作りオーナメント、ボランティア団体による生活必需品や食糧の支援などに対し、被災地の方々、児童会や教育施設の皆さんは震災直後と変わらず今も深く感謝の気持ちを表してくれます。また、毎年のツアー訪問時には、こちらが恐縮してしまうほどに温かく迎え、もてなしてくれるのです。被災地の方々を励ますために訪問したつもりが、むしろ被災地の方々の温かい気持ちにこちらが励まされているような感覚に陥るほどです。正しい動機ではないかもしれませんが、被災地の方々からの感謝の気持ちに励まされながら、これからもコツコツと頑張っていきたいと考えております。

毎度申し上げていることではありますが、こうして支援品を送り、被災地の方々と交流し、現地でバザー品を購入し、寄附をお渡しすることができるのは、聖母の子どもたちと、その保護者の皆様をはじめとする聖母ゆかりの皆様、そして学校法人聖母女学院関係者皆様のご理解とご協力の賜物です。この場をお借りして、改めて心より御礼申し上げます。皆様の期待にたがわぬよう、本年度も積極的に活動して参ります。ありがとうございます。これからもどうぞよろしく願いいたします。（聖母教育支援センター 廣岡将人）

# 桜樹会 香里キャンパス

桜樹会の活動は、学校ボランティアの他にも地域の保育園や幼稚園、老人ホームの訪問ボランティアなど様々な場所で行っています。

学校ボランティアとしては、参観時のご兄弟の預かり保育、小学校図書室での大型紙芝居の読み聞かせなど行っています。目をキラキラさせながら聞いてくれる元気な子どもたちと直にふれあうことができ、いつも私たちの方がパワーを貰っています。また、大型紙芝居の制作では、元美術教諭の國澤先生の優しくて丁寧なご指導により、絵を描くのは学生時代以来という私たちでも楽しく描きあげられ、完成した時には大きな達成感が得られました。

特別養護老人ホーム「寝屋川十字の園」の訪問では、毎回入所者の皆さんの笑顔と感謝のお言葉に元気をいただき、楽しく充実した時間を過ごしております。

今年度も文化祭に参加し、手作り作品の販売や子ども向けの手作り体験を行いました。新1年生のオリエンテーション時にも体操服袋の販売を行いました。売上は、学校や各種団体に寄付させていただきました。

この他、桜樹会を少しでも身近に感じていただけたらと始めた保護者の皆様向けイベントとして、昨年度は廣岡先生の講演会やアンガーマネジメントのワークショップ、手芸作品では「ハーバリウム」「つまみ細工のツーウェイブローチ」の講習会を行いました。何かお役に立てれば幸いです。

桜樹会を支えて下さるたくさんの方々に感謝しながら、これからも活動して行こうと思っております。



※学校ボランティア 小学校参観時の保育  
共遊時間 大型紙芝居 読み聞かせ  
隔週火曜日 10時半～10時52分 小学校図書室

※施設訪問 特別養護老人ホーム「寝屋川十字の園」  
毎月第4月曜日 10時15分～11時15分

※大阪聖母保育園  
仲よし広場（地域の子ども対象の集まり）  
保育のお手伝い 毎週火曜日 10時～11時30分

※紙芝居制作  
國澤先生ご指導の下で製作 隔週火曜日 10時～14時

※キルト  
エイズ孤児にパッチワークのおくるみを送る活動





# かめの会

藤森キャンパス



かめの会は、点訳絵本をつくる会です。主として、大阪にあります点訳絵本図書館「ふれあい文庫」から依頼された絵本を点訳絵本に仕上げ、お返しする活動をしています。年間で 15～20 冊程の点訳絵本を制作しています。

点訳絵本とは、市販の絵本の文章の上に点字の文章を打った透明のビニールシートを貼り、絵の上にも形が手で触ってわかるように透明のビニールシートを貼り付け、触って読むことができる絵本です。目の見える人も、ハンディを抱えられている方も、共に楽しめるようメンバーみんなで試行錯誤しながら制作しています。

およそ 35 年前に全盲の主婦・岩田美津子さんが「わが子に絵本を読み聞かせたい」との願いから点訳絵本が生まれ、その後自身が親子で楽しむことを体験できた点訳絵本を全国に貸し出ししようとふれあい文庫が設立されました。現在約 1 万冊の蔵書が点字無料郵便と認められ、視覚障がいのある親子さんに無料郵送されています。この製作や発送作業の全てがボランティアの活動で支えられています。

このような活動に興味をお持ちの方や、見学をご希望の方はお気軽にお越しください。点字未経験の方も一から勉強することができますので安心してご参加ください。

- ・活動日 毎月第 3 金曜日 10:30～12:00
- ・活動場所 本館 2 階 211 号室



## 藤の会 藤森キャンパス

藤の会では、小中高の保護者と卒業生の保護者の有志で、様々なボランティア活動を行っています。学院内外での活動を通じて、助けを必要とする人々に少しでも手をさしのべるとともに、聖母の子どもたちの成長をお手伝いできれば、という思いで活動を続けています。とはいえ、活動の合間には、同じ聖母に子供を通わせる保護者同士、子供の話や学校の話で盛り上がり、作業の手が止まることもしばしばです。

私たちの活動にご興味お持ちいただける方、ご参加をお待ちしております。

- ◎活動日 毎月第 2 第 4 金曜日 10 時半～12 時
- ◎活動場所 本館(赤れんが)2 階 211,212 号室
- ◎活動内容
  - ・簡単な手作り作品の作成
  - ・幼、小、中高バザー参加



- ・幼稚園行事での未就園児お預かり
- ・聖母教育支援センター「手作り講座」のお手伝い
- ・深草 100 円商店街、大阪聖母保育園バザー等参加

いずれも『参加できる人が参加できるときに』というスタンスで活動しています。

尚、バザー等収益は、被災地等へ支援させていただいております。



## 藤の会 紙芝居班



2017 年度に出来たばかりのボランティアグループです。現在、京都聖母学院幼稚園、京都市子育て支援活動いきいきセンター（つどいの家）稲荷の家ほっこりさんでの上演を中心に活動しています。今後、徐々に活動の場や上演の回数を増やしていければと思っています。

紙芝居の読み聞かせといえば、市販の紙芝居を子供たちの前で読むというイメージをお持ちかもしれませんが、私たちのグループでは市販の絵本を基に背景を描き、ペープサートを作って動かすという方法で上演しています。また、みんなでアイデアを出し合いながら、作品のイメージにあったバックミュージックや効果音も使い、より作品を楽しんでいただけるよう工夫しながら上演しています。

在校生の保護者と卒業生の保護者が、月 2 回程度集まって、おしゃべりをしながら楽しく活動していますので、気軽に活動にご参加いただければと思います。

◎活動日：月 2 回程度 10 時半～14 時頃まで（現時点では、事前に皆様のご都合をお聞きしながら活動日を決めています）

◎活動場所：本館（赤レンガ）2 階 2 1 1 号室

◎活動内容：紙芝居の作成・上演



## ガーデニングボランティアサークル

### 藤森キャンパス

ガーデニングボランティアに参加して



小学校を卒業してから、初めて参加した聖母学院の還暦同窓会で再会した友人に誘われて参加するようになりました。今まで仕事で忙しく、土いじりもしたことがないので、私でもいいのかな、と思いながら参加するようになって、もう丸 2 年になります。参加するメンバーは、その時の本人の都合で入れ替わり、人数も日によって違いますが、仲良くおしゃべりしながら、花壇や芝生などの手入れをしています。週 1 回、戸外で土や草花にふれることはとても気持ちがよく、きれいに咲いてくれると、とてもうれしいものです。作業をしているのは、本館前のマリア様のまわりの花壇。今年は色とりどりのクリスマスローズが咲いています。そして、正門前のサークル、土を掘り返して芝生を植え中央にはパンジーやビオラ、カンナなどを植えています。あと、中高の横の 6 角形の花壇、南門のところのプランター。きれいに季節に応じて苗を植え替えています。塀際の芝桜や水仙、ノースポールはくり返し咲いてくれています。学校にお越しになったときに目をとめていただけたらうれしく思います。

・活動日 毎週金曜日 10 時～12 時

- ・各々参加できるときに参加して活動しています。
- ・家で育てた苗を持ち寄ったり、学祭のバザーや講座で得た収入で苗や土を買っています。
- ・保護者の皆様、関係者の皆様、月に一度でもよいので活動にぜひ参加してください。



聖母教育支援センター

お問い合わせ先

電話 075-641-0507

